

## 他誌発表

チャバネゴキブリ雄成虫の日齢とLD<sub>50</sub>値の関係. 林晃史<sup>1)</sup>, 谷口信昭<sup>2)</sup>: 衛生動物, 32: 246-248, 1981.

成虫の日齢とfenitrothion感受性の関係は, 24時間や72時間あるいは144時間にかかわらず, 28日齢まで安定しており, それ以降の日齢では値が小さくなった. また, 28日齢までの雄成虫における数種殺虫剤の判定時間の経過に伴うLD<sub>50</sub>値の変化などを調べた. これらの結果, 殺虫試験の効果判定は日齢を30日にそろえることの重要性と判定時間は24時間で実用性の高いことを明かにした.

1) 衛生研究所 2) イカリ消毒(株)研究所

On the lipoperoxide concentrations in the viscera of rats intoxicated by Cadmium Chloride.

Junko SAJIKI, Yoshio FUKUDA and Etsuko FUKUSHIMA: Appl Biochem, 3, 467-471, 1981

塩化カドミウム(0.5, 1.0, 1.5mg)をウィスター系の雄ラットに皮下注射し, 24, 48, 72時間目の臓器中(肝臓, 腎臓, 精巣)過酸化脂質ならびにカドミウム含量を測定した.

精巣中のカドミウム蓄積量は, 他の臓器に比べ著しく低いにもかかわらず, 過酸化脂質値は投与量, 投与後の時間経過に比例して増加した. このことは, カドミウムの毒性が臓器間で大きく異なっていることを示唆するものである.

肥満度からみた学童の血中脂質ならびに尿酸値について. 佐二木順子<sup>1)</sup>, 福島悦子<sup>1)</sup>, 藤代良彦<sup>1)</sup>, 信藤羊一<sup>2)</sup>: 動脈硬化, 9, 121-126, 1981.

小学生732名(男374女358)を対象に肥満度, 血中脂質を測定した.

男子については, 肥満度20%以上の者に動脈硬化リスクの増加が明白で, 肥満度20%未満の者との有意差を認めしたが, 女子についてはそのような傾向は認められなかった.

学童男子で肥満度20%以上の者については, 動脈硬化の予備軍として対策を講ずる必要性があることを強調した.

1) 衛生研究所 2) 館山保健所

学童の血清尿酸値ならびに血清脂質値について.

佐二木順子<sup>1)</sup>, 福島悦子<sup>1)</sup>, 藤代良彦<sup>1)</sup>, 信藤羊一<sup>2)</sup>, 多田菊江<sup>2)</sup>, 生貝じん<sup>2)</sup>: 尿酸, 4, 203, 1981.

小学生732名(男374女358)の血清尿酸値と血清脂質値の測定を行なった. その結果, 総コレステロール値に性差は認められなかったが, HDL-コレステロール, 尿酸値ともに男子が女子より, 動脈硬化指数, トリグリセリド値については女子が男子より高かった. HDL-コレステロールについては, 5~6年で男女の加齢変化曲線が交差し, HDL-コレステロール値の内分泌代謝との関連が示唆された.

1) 衛生研究所 2) 館山保健所

高速液体クロマトグラフィーによる養殖魚中のニトロフラン誘導体の定量. 永田知子, 宮本文夫, 佐伯政信: 食品衛生学雑誌, 23, 278-282, 1982

高速液体クロマトグラフィーを用いて養殖魚中のフラゾリドン, ニフルスチレン酸ナトリウム, ニフルピリノール及びパナゾンの同時定量法を検討した. 試料は, メタノール:N,N'-ジメチルホルムアミド(49:1)で抽出後濃縮し, セップパックC<sub>18</sub>でクリーンアップし, H.P.L.Cに注入した. 検量線は250μgまで各々直線性を示し, 定量限界はフラゾリドン, ニフルスチレン酸ナトリウム, ニフルピリノールが0.05ppm, パナゾンが0.1ppmであった. 0.4ppm添加で各々の平均回収率は, 93~101%, 75~98%, 81~100%, 54~72%であった.